

乳がんの心臓をチームで守る

患者さん～腫瘍循環器チームについて～



乳がんに対する薬物療法の副作用で生じる心臓障害から患者さんを守る本院の取り組みについて、循環器内科の山田医師にお話を伺いました。

がん治療と心機能障害について

医療が発達したことにより、がん患者さんの生存期間が大幅に長くなり、がんを克服した方々も増えました。しかしそのために、がんの治療中や治療後に心臓や血管、循環器系の病気を発症する患者さんも増えています。がんの治療には、副作用として心臓に悪影響を与える(心毒性)ものがあり、がん治療関連心機能障害と呼ばれています。さらに、循環器疾患のリスクが高い高齢の患者さんにがん治療を行うことも増えたために、近年がん治療における循環器疾患について注目が集まっています。



腫瘍循環器チーム

■説明は
徳島大学病院
循環器内科
特任教授

山田 博胤
(やまだ ひろつぐ)

■お問い合わせ先
内科外来
Tel: 088-633-7118

患者さんへひとこと

治療によってがんが良くなっても、将来心臓や血管の病気になるリスクがありますので、生活習慣病(高血圧、糖尿病など)には気をつけてください。また、何か気になることがあれば、まずかかりつけ医にご相談ください。

乳がん患者さんの心臓を守る取り組み

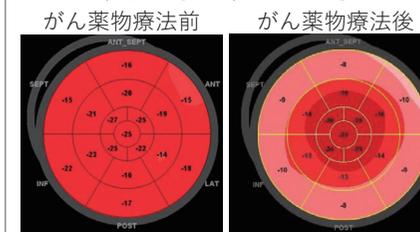
本院では、特に標準治療で用いられる薬剤に心毒性があることが知られている乳がんについて、循環器内科、乳腺甲状腺外科や超音波センターが、腫瘍循環器チームとして、がん治療関連心機能障害を早期に診断し、必要な患者さんには治療ができる体制を整えています。

薬剤の副作用は必ず発現するわけではないので、がん治療の主治医は治療方法に心毒性があるからといって、優れた効果が期待できる薬剤を使用しないわけにはいきません。本院では、超音波センターにおいて心毒性のある治療を行う乳がん患者さんの心機能を定期的にチェックし、症状が出現する前の心筋障害を発見した場合は、速やかに心臓を守る心保護療法を開始しています(図)。

この取り組みを始める以前は、息

切れや足の腫れなどの心不全の症状が出てから循環器内科を受診する患者さんがほとんどでしたが、心機能をチェックする体制が出来てからは、心不全で入院する乳がん治療中の患者さんはいなくなりました。また、心保護療法を行うことで、心不全の治療のためにがん治療を中断したり、薬剤などを減らしたりすることなく治療を完遂することができるよう、適切かつ円滑ながん治療にも貢献しています。

図 <スペクトルトラッキング心エコー図法による心筋障害の検出>



数字は局所心筋の収縮能を表している。治療前の収縮能は正常であった(赤色)が、がん薬物療法後には、一部の領域で心筋収縮能が低下した(ピンク色)。

今後の課題

現在、本院では、特に乳がん患者さんのがん治療関連心機能障害についてのサポート体制を整えています。しかし、乳がん治療で使用する心毒性のある薬剤が他臓器のがん治療

に用いられるようになったり、心毒性のある新しく複雑ながん治療も増えてきていたりすることなどもあるため、病院全体でがん患者さんの心臓を守る仕組みができればと考えています。

徳大病院ニュース

「徳島大学病院フォーラム2022春」のケーブルテレビ放送について

令和4年3月29日よりケーブルテレビ徳島、4月18日よりけーぶる12において、市民公開講座「徳島大学病院フォーラム2022春」を放送します。

テーマは第1部が「糖尿病～糖尿病の重症化を予防し、良い人生を送るために～」、第2部が「がん～ここまで進んだ最新のがん治療～」です。是非ご覧ください。

放送日	時間	内容	チャンネル
3月29日(火)	13:00～15:00	第1部	ケーブルテレビ徳島 111ch (11ボタン)
3月31日(木)		第2部	
4月 2日(土)	12:00～14:00	第2部	
4月 3日(日)		第2部	
4月18日(月)	14:00～16:00 16:00～18:00	第1部 第2部	けーぶる12 121ch (12ボタン)
4月20日(水)	14:00～16:00 16:00～18:00	第1部 第2部	
4月25日(月)	14:00～16:00 16:00～18:00	第1部 第2部	
4月27日(水)	14:00～16:00 16:00～18:00	第1部 第2部	